

9. DX（デジタル・トランスフォーメーション）

デジタル技術を用いて教育・研究の質を高め、業務・サービスを変革する

【ビジョン】

AI（人工知能）の飛躍的な発展、ビッグデータ、IoT（Internet of Things）やクラウド・コンピューティングといったデジタル技術の活用が進んだことで、我々の生活や働き方は大きく変化し始めている。さらに、2020年初頭に始まった新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の拡大は、全面的なオンライン授業の導入や会議のリモート化など、関西学院大学の教育と経営に「新しい日常」をもたらした。

今後、COVID-19が収束したとしても、これらのデジタル技術の活用はかつてない速度と規模で進むと予測される。5Gの環境が整備されれば、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）を駆使した新たなサービスが創り出され、リアルとバーチャルが融合した世界が生まれる。教育分野における変化も劇的かつ不可逆的に進展する。

ポストコロナのパラダイムシフトに対応するためには、本大学の教育と経営も本格的にデジタルを活用する「DX（Digital Transformation）」が必須となる。そして、先駆的にDXを進められるかが、本大学の社会的価値を定める試金石となるだろう。但し、DXのDigitalはあくまで手段であり、Transformation（変革）こそが本質である。そして、DXの目的は、本大学の教育理念の実現にあることを忘れず、DXが目的化しないように常に戒めなければならない。

社会は、「Society 5.0」のCyber-Physical System（物理空間と情報空間の融合）への転換が急速に進みつつあり、本大学も対面型とオンライン型を組み合わせることで教育、研究や各種サービスを一層効果的・効率的なものへと作り変えていく必要がある。例えば、知識修得型の授業ではオンライン型（オンデマンド）の有効性が明確になっており、この部分の効率化を図って教育資源（教員等）をコンピテンシー重視の対面型授業（協働学修等）へシフトすることでカリキュラム全体の教育効果を高めるなどの取り組みが必須となる。

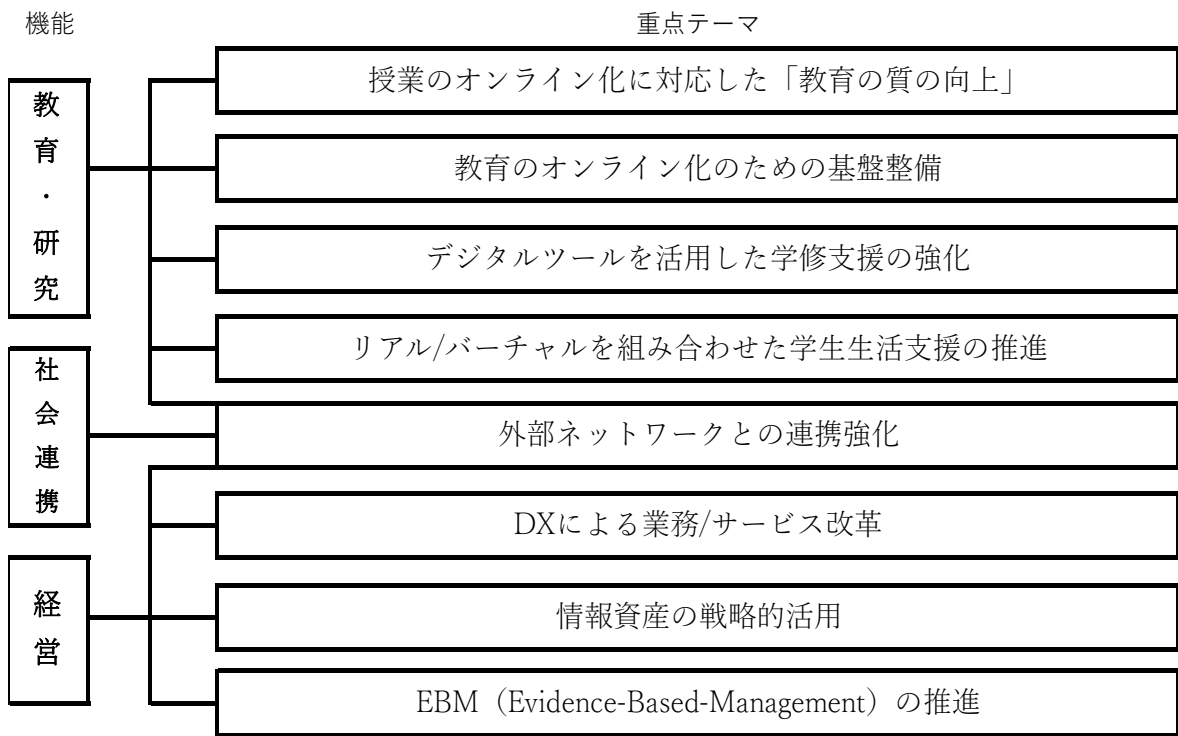
本大学では、長期戦略のフェーズⅡ（2022-2024年）を迎えるにあたり、DXを経営上の最重要戦略と位置付ける。教育・研究や学生・学修支援等の価値の最大化、サービスや業務、働き方、機能・組織の在り方等の徹底的な見直し、デジタルデータを最大限に活用したマネジメント等の実現に向かって、教育・研究・経営のデジタル化を強力に推進する。

DXの推進にあたっては、2021年度より設置される「情報化改革本部」（事務局：情報化推進機構及び総合企画部）が中核となり、以下の基本方針、機能別の重点テーマに即して全学体制で取り組む。

【基本方針】

- 1) IT ガバナンスの確立（関西学院全体の IT 予算の統括、「全体最適」の追求）
- 2) 教育・研究の情報化推進（教育・研究の質向上のための基盤整備）
- 3) 業務プロセスの標準化（サービス基準の設定とユーザ視点の両立）
- 4) 紙からデジタルへの全面シフト（ペーパーレス、業務・サービスの刷新）
- 5) データの一元管理（ETL ツールⁱ 等の導入）
- 6) デジタル人材の内部育成と外部の有効活用
- 7) 安定・安全のための投資・体制の強化（セキュリティ強化と利便性の両立）

【機能別の重点テーマ】



なお、上記の重点テーマが該当する長期戦略テーマ毎に個別実施計画を定め、中期総合経営計画フェーズⅡ（2022-2024年）より計画の具体化を推進する。

ⁱ ETL ツール：さまざまなデータベースからデータを抽出し、データウェアハウス（DWH）に取り込みやすいフォーマットに変換・加工して書き出す処理を行うツール。